

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577800331		
法人名	社会福祉法人菊水会		
事業所名	グループホームうぐいすの里		
所在地	山口県下関市菊川町大字下岡枝1062番地		
自己評価作成日	平成28年6月10日	評価結果市町受理日	平成28年12月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年7月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は木屋川の河川公園のすぐ傍にあり、四季折々の景色が楽しめます。入居者様お一人お一人の思いを大切にするため、会話や言葉の記録を心掛けています。時間の許す限り入居者様と過ごし散歩やレクリエーションが楽しみになるように努めています。食事を3食作り、盛り付けや食器洗いにも参加していただいています。毎年1回味噌作りを、毎月1回甘酒を一緒に作り召し上がっていただいています。このような、今まで自宅でして来られたことに近いことが出来たり、続けられることで落ち着いた生活が出来るように支援し、ゆっくりとした対応をすることを心掛けています。2ヶ月に1回家族会を開き食事を一緒に摂っています。春には家族旅行を計画実施しています。また地域、法人との行事にも参加し生活を豊かに、また張り合いのあるものになるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

年6回開催される家族会にはほとんどの家族が毎回出席され、家族間の交流や職員との話し合いを活発にしておられます。家族に年2回の満足度調査を実施されたり、年1回の日帰り旅行、食事会や面談など、家族の意見や要望を把握するために多くの工夫をしておられます。家族会に参加することが難しい遠隔地にいらっしゃる家族には事業所便り送付時に利用者の状況を写真を添えて知らせてもらえるなど、家族と共に利用者を支えていかれるよう取り組まれています。事故防止のために毎週2回、急変時や事故発生に備えた訓練をマニュアルにそって継続して実施され、職員全員が実践力が身につくように取り組んでおられます。事業所の畑で取れた旬の野菜や旬の食材を使って、利用者と一緒に事業所で食事づくりをしておられます。献立は法人の管理栄養士が作成され、利用者の好みや旬のものを採り入れて、栄養バランスに配慮した食事づくりを心掛けておられ、おやつづくりや季節の行事食、誕生日のケーキなど、食事が楽しみなものになるように支援しておられます。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します											
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印					
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと				
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない				
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように				
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度				
			3. たまにある				3. たまに				
			4. ほとんどない				4. ほとんどない				
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない				
			4. ほとんどいない				4. 全くいない				
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない				
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が								
			2. 利用者の2/3くらいが								
			3. 利用者の1/3くらいが								
			4. ほとんどいない								

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員により目標を作り、ホーム内に掲示、日誌にも書き込みいつも目に触れるようにしており、毎朝朝礼時に唱和している。職員が共有し実践に繋げている。	法人の理念にそって地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の目標をつくり、事業所内に掲示している。職員は朝礼時に唱和し、毎日記録する生活日誌に記載して共有し、ケアに活かす具体的な毎月の目標を立てて、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の敬老会、お大師様、秋祭りの参加など、地域の方との交流がある。運営推進会議には、地域の自治会長、市民生活課の課長、消防団の団長、警察官等の参加があり意見交換をしている。	自治会に加入し、総会に参加した法人からの情報を得て地域行事に参加している。利用者は地域の秋祭りや御大師様参り、ふるさと市、敬老会などに職員と一緒に参加している他、神社の祭りでは、神輿が事業所に立ち寄り、利用者は神輿の下をくぐる習わしを体験している。事業所で実施している夏祭りや併設施設の交流スペースに参加(月1回の法話やカラオケ教室、押し花クラブ)の地域の人や子ども達と交流している他、ボランティア(ハーモニカ演奏、日本舞踊、傾聴、包丁研ぎ、草刈、剪定)で来訪の人と交流している。散歩時や近隣の商店での買物時、ポストに手紙の投函時等に地域の人と挨拶を交わしているなど、日常的に交流している。法人主催の「学びま専科」を年4回開催しており、管理者は講師を務めているなど、認知症の理解を深めるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人で「地域で学びま専科」という勉強会を開催しており地域の方を交えて勉強会を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は職員一人一人に配布し記入してもらっている。評価項目を読み評価することは、ケアの確認や自分たちの立場、新人には知らなかった地域とのつながりなどの理解になった。	管理者は評価の意義について職員に説明し、全職員に自己評価をするための書類を配布して記入してもらい、まとめている。自己評価を日々のケアの振り返りと捉えている。外部評価結果を受けて、事故防止のための緊急マニュアルの見直しや応急手当の計画的実践研修に取り組むなど、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の様子や行事の内容、ヒヤリ事故を報告している。また、会議で教えて頂いた地域の行事に参加する等サービスの向上に活かしている。	会議は年6回開催し、入居者の状況やヒヤリハット・事故報告、行事、外部評価報告、満足度調査結果報告等を行った後、話し合いをしている。参加者からは地域の人との交流機会(場所や行事)の紹介や外出先の提案があり、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議への参加や、行方不明捜索訓練への参加等を通して関係事項を知ったり、運営推進会議で施設を見学していただいたり、入居者の実情を伝え理解していただけるようにしている。	市担当者とは運営推進会議時の他、電話や年6回あるケア会議に参加した時に情報交換や疑義について相談し、助言を得るなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話で情報交換や利用者の状況について相談しているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内のグローアップ勉強会では、毎年勉強の項目としている。参加できない方には持ち帰った資料を回覧している。セーフティケア会議・スタッフ会議でも身体拘束について話し合いをしている。	法人研修や内部研修、スタッフ会議等の中で学び、職員は身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。玄関には施錠しないで外出したい利用者があれば一緒に出かけるなど、拘束のないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては管理者が気づいた時にその場で指導している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のスタッフ会議では、入居者様の立場を十分に理解して虐待が起こらないよう言葉遣いやケアプランを話し合うようにしている。法人内でも勉強会を行い職員の意識向上に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を利用されている方がおられた。成年後見制度について、グループホーム内で勉強会を行い制度の理解に繋げている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、パンフレット・重要事項説明書などで丁寧に説明をし、ユニットの見学も行っている。また、現在や将来的な不安・疑問点もしっかり耳を傾け一緒に考えるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人と事業所ごとに苦情受付の窓口を設けている。家族会の時にはご家族が意見や要望が言いやすいように家族だけの時間をとっている。また、年2回ご家族に満足度調査アンケートを行い意見を頂き、運営に反映させている。	苦情相談窓口や受付体制、第三者委員を明示し、処理手続きを定めて契約時に家族に説明している。家族宛に2カ月に1回、事業所便りを配布し、遠方にいる家族には利用者の近況を知らせて意見が言いやすい様に工夫している。運営推進会議時や年6回の家族会活動(衣替え、夏祭り、大掃除等)時、家族面談時、面会時、電話等で直接聞いている他、年2回満足度調査の実施や遠隔地家族に利用者の状況を知らせる手紙を送付して、家族の意見や要望を聞いている。苦情受付ボックスを設置している。職員の態度や食事の内容、利用者の整容等についての意見があり、運営に反映している。家族会から停電時の各部屋用「ランタン」購入の援助を受けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課表の記入を行っている。半年毎に評価し上司との面談があり、意見や提案もできるようにしている。	月1回のスタッフ会議やセーフティ会議、毎朝のミーティング、年3回の個人面談等で職員の意見や要望を聞く機会を設けている。職員に業務内容を分担して、会議時に意見が言いやすい工夫をしている。月毎の目標の提案や加湿器、空気清浄器の購入、夕食づくりの工夫(ユニット毎の一品交換)、個別ケアの工夫など、職員の意見や提案を運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員面談時の意見で、希望の研修に参加出来るようにすることや、時間内に仕事を終えるような声かけを行うなど取り組んでいる。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人に合った研修を受ける機会を提供し、全職員会議で研修報告をおこなっている。新人職員については、法人内で新人職員研修を行っている。また、資格取得については人事考課の中で自己啓発として目標にあげてもらっている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望に応じて、勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は研修報告書を提出し、月1回のスタッフ会議で伝達し、資料はいつでも閲覧できるようにして職員全員が共有している。法人研修は年間計画のもとに、月1回実施(リスクマネジメント、介護技術、危機管理等)している。内部研修は、職員にアンケートを実施し、希望するテーマを参考にして、年6回、職員が講師を務めユニット毎に計画的に実施(成年後見制度、避難訓練、緊急時対応、介護技術、接遇、記録、レクリエーション)している。新人研修は法人において年2回実施の後、日々の業務の中で介護の知識や技術を学んでいる。資格取得のための支援をしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡会や地域ブロック研修会に参加し、研修や情報交換、施設見学を行い参考に出来る事は取り入れている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前にその方の状態や思いを知る為にご本人やご家族に会いお話を聴いている。不安な事や要望を聴き信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との話の時間を十分に取り、困っている事、不安な事、要望等を聴きながら事業所として入居者様に出来る事を伝えるようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族としっかり話し合い、必要としている支援が提供できるように対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	甘酒作りや味噌作りなど知恵をいただき、一緒に作っている。食事作りや洗濯物干し等、人生の先輩として教えをもらいながら一緒に行っている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会の時には、ケアプランの説明と入居者様の日々の様子を伝えている。ご家族からも情報をいただき、共に入居者様を支えていくよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会時はゆっくりして頂けるよう配茶する等配慮している。また、地域で開催される敬老会へも参加できるよう支援している。	家族(子ども、孫、ひ孫)の面会、親戚(兄弟、姪、甥)の人、近所の人、仕事仲間、趣味仲間、仏教、婦人会の仲間等の来訪がある他、電話や手紙での交流を支援している。馴染みの商店での買物や敬老会に出かけている。家族の協力を得て、馴染みの美容院の利用や趣味の発表会に出かけたり、法事への出席、墓参り、自宅の仏様を拝みに帰る、寺参り、一時帰宅、外泊、外出、買物、外食など馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護度の違いもあるが、レクリエーションの時は同じ空間で楽しめるように配慮している。また、入居者様同士のトラブルがある時は間に入るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養へ移られた方にも、入居者様と一緒に会いに行ったり、法人内の行事等でも交流している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、ご本人の思いの把握に努めケアプランを作成している。また、日々の言葉や行動を個人記録に記入し、ご本人の希望に添えるよう努めている。	入居時のセンター方式のシートを活用している他、日々のケアの中で利用者の発した言葉や行動、表情を個人記録(食べたいものや行きたい所、会いたい人、嬉しい時、楽しいこと、不安な表情が見えた時など)に記録して思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や入居者様の話を聴き、センター方式に記入している。スタッフ間で情報を共有し、把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録表、個人記録表、健康記録表に記入し、日々の様子や状態の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度スタッフ会議では、モニタリング、評価、見直しを行っている。家族会でケアプランの説明をご家族、ご本人様にしている。面談後には、家族に希望を聴いた上で、今現在の状態に応じた計画を作成するように努めている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心となって、月1回、スタッフ会議の中でケアカンファレンスを行い、本人の思いや家族の希望、主治医や看護師の意見を参考にして職員全員で話し合い介護計画を作成している。月1回、モニタリングを実施し、見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアについての気付きは個人記録表に記入し、職員間で情報を共有しケアプランに反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族会では、デイサービスのバスや法人の車、職員にも応援していただいている。移動美容室の利用により、入浴の難しい方の洗髪をしていただいている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、消防団、警察などに普段から理解して頂けるように運営推進会議を通して情報提供している。また、ボランティア(傾聴ボランティア・包丁研ぎ)の受け入れもしている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医をかかりつけ医にされておられる方は職員が受診支援している。また、入居される前からのかかりつけ医への受診は、ご家族の協力を得て受診している。結果に関する情報を共有し、適切な医療が受けられるようにしている。	本人、家族の納得を得て、ほとんどの利用者が協力医療機関をかかりつけ医としている。月2回の訪問診療と2カ月に1回の定期受診を支援している。他科受診は家族の協力を得て受診支援をしている。歯科は必要に応じて往診がある。受診結果は家族の面会時に報告している。休日や夜間、緊急時には協力医療機関が対応している。日々の健康管理は看護師が行い、介護職と連携して、異常の早期発見や受診機会をつくり、受診時には、療養シートや健康チェック表による情報を医師に提供して、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護職が常勤しており、日々の健康管理を行っている。介護職は入居者の変化を見落とさないよう注意し、看護職へ報告を行い適切な受診や看護を受けられるように支援している。療養シート、健康チェック表を使用している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される時は、サマリーを作成し情報を伝え、病院関係者と情報交換をしている。主治医やご家族と相談し、早期退院が出来るように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時・緊急時の意向を、ご本人やご家族に入居時等に確認している。事業所で出来る事を十分に説明し、嘱託医と職員が連携して取り組み、安心して介護を受けて頂けるようにしている。	「看取りの指針」があり、契約時に、重度化や終末期に事業所でできる対応について家族に説明をしている。入居時と重度化の状態に応じて、急変時や延命処置について希望や意向を確認し、文書にサインをもらっている。実際に重度化した場合は、早い段階から主治医が家族に状態を説明をして家族と方針を決めて共有して、訪問看護や法人、事業所と連携してチームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故報告書、ヒヤリハット報告書をその都度作成し、再発防止策をスタッフ内で話し合っている。また、週2回緊急時の対応訓練を行っている。	事例が発生した場合は、その場にいる職員で話し合い、「ヒヤリドキット報告書」に内容、原因、対応、防止策を記録し、職員に毎朝礼時に報告するとともにスタッフ会議で再度話し合い、ひとり一人の事故防止に努めている。事故の場合は月1回ある法人のセーフティ会議に報告している。消防署の協力を得て救急救命法とAEDの扱い方についての講習を全職員が受講している。内部研修で緊急時の対応について学習し、毎週2回(火、金)、マニュアルに添って、急変時や事故発生に備えて、ケガや転倒、窒息、気道確保、意識不明、行方不明、火災時の対応等についての訓練を継続して実施しており、実践力を身につけている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人で実施される避難訓練に参加している。グループホームでは、週2回緊急時の対応訓練を行っている。勉強会でも入居者様と一緒に避難訓練をおこなった。	消防署の協力を得て、年2回、法人が実施する昼夜の火災を想定した避難訓練、通報訓練、消火器の使い方、防災機器の使い方、避難経路の確認について、利用者と一緒に参加している。運営推進会議に消防団の分団長の参加があり、避難訓練について話し合い、災害時には地域の避難場所として協力することを申し出るなど、地域との協力体制を築くように取り組んでいる。	・地域との協力体制の構築

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応について、法人内での勉強会に参加している。グループホーム内でも接遇について勉強会を行い、不適切な対応をしないよう心掛けている。	内部研修(接遇)で学び、利用者に対しては人生の先輩として尊敬の念を持ち、家族のように親しみを込めて接し、誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応をしている。個人記録は取り扱いに留意し、守秘義務は徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	10時の飲み物については、メニュー表を作り好きな物を選んで頂き飲まれている。食事、パンやご飯、ドレッシング類等希望を聞き準備し提供している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様によっては、居室で趣味を楽しまれたり、横になりたい時間帯もある。レクリエーションや散歩、外出は声掛けをしご本人の意思を確認しながら参加していただいている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洋服、入浴後のパジャマ等、ご本人が着たい物を選んで頂いている。日帰り旅行の際は、女性は薄化粧をしている。美容院は、移動美容室を利用されている方が多いが、行きつけの美容院へご家族の協力で行かれる方もいる。男性の髭剃りの支援も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で採れた旬の野菜の皮むきや、盛り付け、食器洗い等を一緒にしている。手作りのおやつも一緒に作っている。	利用者と職員が一緒に買物に行き、事業所の畑で取れた旬の野菜や家族からの差し入れの野菜を使って三食とも事業所で調理し、利用者の状態に合わせて、形態の工夫をして提供している。献立は法人の管理栄養士が作成しているが、利用者の好みや旬のものを取り入れて一部変更することもあり、週1回は利用者の希望する刺身を付けている。利用者は買物、野菜を切る、皮剥き、盛り付け、台拭き、お盆拭き、ナプキンを敷く、お茶汲み、食器洗い、など、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルについて食材を話題に楽しく食事をしている。おやつづくり(蒸しパン、ラスク、おはぎ、団子、ホットケーキ、どら焼き、甘酒)や保存食(りんごジャム、味噌、紫蘇ジュース、ラッキョ)づくり、おやつを戸外のウッドデッキで食べる、誕生日会のケーキ、季節行事食(おせち、恵方巻、押し寿司、ソーメン流し、餅つき)、旅行時や家族との外食など、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量の記録をしている。おかゆや刻み、ミキサー食、むせる方にはとろみを付ける等その方にあった食事作りをしている。食事摂取が困難な方には栄養補助食品も勧めている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけや介助を行っている。夜間は一日おきに入れ歯を預かり、洗浄液に浸けて洗浄している。歯ブラシは豚毛などその方にあった物を使用している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄等の記録表により、その方に合わせたトイレの声かけや誘導を行っている。尿とりパッドもその方に合わせて選んでいる。必要な方には、夜間ポータブルトイレを居室に設置している。	排泄記録表を参考にして、ひとり一人の排泄パターンを把握し、利用者に応じた言葉かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便のため、毎朝牛乳を飲んで頂いたり、ヨーグルトやバナナも摂って頂いている。牛乳が飲めない方には、野菜ジュースやヤクルトを準備している。排便状況を生活記録表に記入し、水分を勧める等調節をしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日13時半から18時の間で希望の時間に入浴出来るようにしている。毎日入浴される方もいるが、体調等によってはシャワー浴や清拭、足浴等に心掛けている。曜日を決め、週に3回は必ず入浴出来るようにしている。	入浴は毎日、13時30分から18時まで可能で、利用者の希望に合わせて、入浴時間や湯加減、好みの石鹸を使ったり、入浴剤を入れて色や香り、温泉気分を楽しんだり、季節に応じて柚子湯にするなど、ゆったりとくつろいだ入浴となるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで入浴時間の変更や職員を代える、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて清拭や足浴、部分浴等、個々に応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後すぐに休まれる方も、テレビを見て過ごされる方もおられる。眠れない時には飲み物を勧めたりお話をして落ち着いた気分になれるよう支援している。居室の室温や布団の調節も行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表をファイルしており、すぐに見れるようにしている。症状に変化があり、臨時薬が出る時は、療養シートや連絡帳に記入し伝達の徹底に努めている。薬の変更があった場合は、朝礼で報告し確認をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	法人のクラブ活動(カラオケ教室、法話、押し花)に参加。体操(ラジオ体操、上肢・下肢筋力体操、GH独自の体操)、レクリエーションでは、言葉遊び、すごろくゲーム、黒ひげゲーム、かるた、トランプ、折り紙で作品作り、歌を唄う等楽しくされている。家事では、洗濯干し・たたみ、食事の盛り付け、食器洗い、野菜の皮むき、季節的には甘酒・味噌作り、紫蘇ジュース・梅シロップ作り、おはぎ・ぜんざい・ケーキ作り、買い物・散歩等その方の習慣や希望を踏まえて楽しく出来るよう支援を行っている。	廊下のモップ掛け、シーツ交換、洗濯物干し、洗濯物を取り込む、洗濯物たたみ、花を生ける、保存食づくり、縫い物、編物、新聞、雑誌を読む、習字、テレビ、ラジオ視聴、芝居を見る、しめ縄づくり、体操、ゲーム、かるた、トランプ、折り紙、カラオケ教室、押し花づくり、法話、小学生とのふれ合い、お神輿の下をくぐる、買物、外出、季節行事(鏡開き、雛祭り、花祭り、節分、御大師様参り、ソーメン流し、夏祭り、秋祭り、敬老会、餅つき)、ハーモニカやオカリナ演奏会など、利用者一人ひとりの活躍できる場面をつくり、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	グループホームの周囲には河川公園があり、四季を通して散歩に出かけている。季節により菖蒲見学やコスモス見学、みかん狩り、お大師様参りや秋まつり、敬老会への参加など地域に出掛けられるようにしている。毎月の行事は入居者様の見える所に掲示している。また、年に1回ご家族も一緒の日帰り旅行にも行っているが、希望を聞きながら毎年勧めている。	周辺の散歩やウッドデッキでの日向ぼっこ、買物、季節の花見(桜、キンセンカ、ビオラ、つつじ、菖蒲、コスモス)、道の駅へドライブ、御大師様参り、初詣、花祭り、敬老会、日帰り旅行、みかん狩りなどに出かけている。家族の協力を得て外出、外食、外泊、買物、美容院の利用、法事への出席、墓参り、一時帰宅など、利用者の希望にそって戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から預り金をお預かりし、必要時はこれから使用している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用されている方があり、聞き取り易いように耳元に受話器を当てる等支援している。また、遠方のご姉妹と手紙のやり取りをされている方もいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下に写真や押し花、季節の作品を展示し楽しんで頂けるようにしている。玄関や居間、居室には花を飾る等して季節感を取り入れている。	玄関や居間には季節の花が生けてあり、居間や居室の窓から見える田園風景に季節を感じることができる。室内の壁面には利用者の作品や活動写真が飾っており、日々の暮らしの様子が分かるようになっている。室内にはテレビや机、椅子、大きなソファ、廊下には長椅子等を配置して、利用者は思い思いのところでくつろげるようになっている。温度や湿度、換気、音に配慮して、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファの3人掛け・1人掛け、肘付座椅子、決まった食席、ホーム内の取り付けの椅子、和室の掘りごたつ等、好きな場所で過ごせるようにしている。玄関にベンチやいすを用意し景色を眺めたり、気分転換出来るようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置いている物は、なるべくご自宅で使用されていたものを活かし、一人一人が居心地良く過ごせるようにしている。配置についても、今までの習慣等配慮した家具の配置にしている。	ベッドや机、小テーブル、テレビ、カセットラジオ、扇風機、洋服掛けスタンド、衣装ケース、仏壇、過去帳、雑誌、寝具、衣類、化粧品、編物道具など使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族写真や押し花の自分の作品、カレンダーを飾って居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室、トイレに手すりを設けている。トイレは表示をし、居室も名前を表示している方もいる。自立した生活が送れるように整理整頓や、動線を考えた家具の配置を工夫し安全面にも気を付けている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム うぐいすの里

作成日： 平成 28年 12月 16日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	緊急時対応訓練に参加している職員の把握が出来ていない。	職員一人ひとりが実践力を身につける。	訓練に参加したら参加表を付けるようにした。 リーダーが参加状況を把握するようにした。 10月・避難訓練実施 12月・1月 緊急時の対応訓練実施 平成27年12月25日「緊急時の対応」さくら館実施 平成28年2月18日「緊急時の対応」うめ館実施	平成27年9月～ 平成28年11月
2	36	「災害対策」について、運営推進委員の参加が得られていない。	訓練を通して、地域の方と災害時の連携を実際に行うことができる。	「災害対策」について、運営推進会議で、平成28年7月に地域との災害時の連携方法を確認し合った。9月に「グループホームの災害時の避難マニュアル、行方不明時の搜索マニュアル」について話し合いと意見をいただいた。会議の中で施設の訓練に自治会長も参加して頂けるという話になった。 ①平成29年4月に施設全体の火災避難訓練がある。参加の声掛けを運営推進会議や、家族会(1回/2か月)の中で行う。 ②「グループホームの災害時の避難マニュアル、行方不明時の搜索マニュアル」の見直しを行い、訓練に活かす。	平成28年12月～
3					
4					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。